

次期弘前大学情報基盤システムに望むこと

医学研究科 上野 伸哉
shinyau@hirosaki-u.ac.jp

テーマとして、“次期弘前大学情報基盤システムに望むこと”で依頼がありました。以下に示す内容が依頼のお題と合致するかは疑問あるところですが、

- ①コンテンツ利用のための情報提供の改善
- ②著作権に対する具体的指針
- ③学生・教員のデジタル情報、ネット利用のリテラシー向上

この3点が、今後弘前大学システムの充実、とくに運用面を高めるには必要があると思っています。

主に講座コンピュータを利用する教員として情報基盤システムに関連して思い浮かぶのは、学内ネットワーク、e-mail および web サイトの利用等でしょうか。これらの普段の利用として、ネットワーク上で論文検索、データベース検索、出張旅費の処理、会計処理、さまざまな事務処理があります。私の講義での利用として、医学英語でのアルク教材、生理学シュミレーションソフトを学生が端末を用いて学習することや、担当する教養教育、専門教育講義での Moodle も用いた講義資料、小テストの提供などがあげられます。また医学部においては、統計ソフトを用いた実習・演習講義、医師国家試験対策ソフトの利用、文科省による医学部学生のための準国試扱いとなっている CBT (Computer Based Test) の実施など情報システムの利用に依存しています。これらの利用時に実感するのは、特にハード面では最近では随分よくなっているように思います。私が弘前大学に来て 16 年目となります。その間、インターネットの普及、学内 LAN、無線 LAN が学内で使えるようになっていきます。また医学部の端末も 150 台を超えるまでに増えました。しかしながら、ネットワーク上でなにか新たに始める際の手順等はまだまだわかりにくいし、ハードルの高さを感じています。最近の経験でいうと、Moodle の使用の際に弘前大学サイトにマニュアルはなく、他大学サイト等を利用したり検索したりと、なかなかとつきにくい状況が続いています。また教育関係の資料は、アクセス制限設定、著作権の問題で、どこまでデジタルとして載せられるのか、あいまいなことも多く悩むところです。また、本学において情報流出の事例があり、最後は使用している人の認識、理解に依存しています。学生にも、1 年次の基礎ゼミナールの時間にいろんな事例、特にネット上の注意点を紹介はしていますが、まだまだ十分ではないかなと感じています。

予算の問題はついてまわりますが、ハード面を生かすヒト、ノウハウの共有、リテラシー向上のための学ぶ機会を増やすことを望んでいます。